

# 自営通信網統合監視システム



操作端末装置（系統表示画面例）

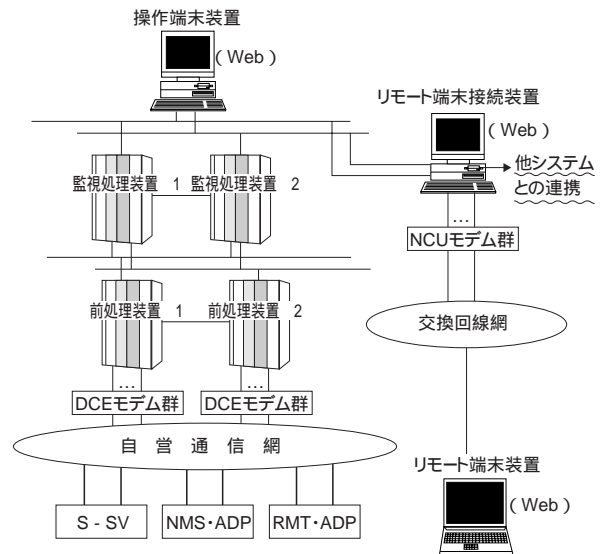
自営通信網統合監視システムは、自営にて通信ネットワークを構築するユーザに提供し、通信ネットワークを構築する伝送装置・伝送設備・電源設備・局舎付帯設備の運用・故障情報をセンターにて集中的に監視を行うものです。

1987年度から本システムの導入が始まり、近年では自営網監視システム市場の低価格、省スペース化により競合が激化している中で、従来は系統制御装置とシステム管理装置の二つの装置で運用していた処理部を監視処理装置として一体化し、操作端末装置およびリモート端末装置のWeb版を開発しました。

Web版システムを導入することで、隣接する他局、他支社間でのWeb連携も将来機能として可能となります。これによって幹線ネットワークの障害による他支社への影響度の確認が可能となり、スムーズな故障箇所判明および復旧につながります。

## 特長

- 1) 収集した監視情報を、発生中および履歴情報としてロギング表示します。
- 2) 監視情報の発生/復旧時、ブザー鳴動および系統図等の表示色を色替えることで、運用者に迅速かつ明確に通知します。
- 3) 保守作業および他工事等の関連により、故障の発生が想定される場合において、事前に監視情報のマスクができます。
- 4) 幹線ネットワークを構成する、局間パス構成およびその回線状態を表示します。



自営通信網統合監視システムの構成例

- 5) 本システムの監視情報の履歴情報を一定周期ごとにCSV形式で他システムへFTP転送し、Microsoft Excel<sup>注1)</sup>等の汎用ソフトで二次利用の利便性が図れます。
- 6) 操作端末装置およびリモート端末装置は、Web表示をします。
- 7) 二重化システムで運用系異常発生時、操作端末装置およびリモート端末接続装置が自動的に予備系に切替え、監視を続けます。
- 8) 低価格、省スペースを実現しています。

注1) Microsoft Excelは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。